

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970102008
法人名	ドリームワークス有限会社
事業所名	グループホーム ドリーム
所在地	山梨県甲府市川田町367-1
自己評価作成日	令和 4 年 11 月 16 日
評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 4年 12 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

果樹地帯の恵まれた環境の中で利用者とスタッフが共に生き生きと充実した生活を送っています。ドリームは、施設長が生まれ育った所であり、隣接して自宅もあり、そのため顔なじみの人々も多く暮らしており、地域との交流が自然な形で行われています。周りに広い果樹畑があり、そこで取れた季節の果物をいただき、お茶を差し上げる等の交流もあります。施設内は危険な物は排除されており、すっきりと整理整頓され清潔に保たれています。掲示物も心のこもった暖かいものが飾られています。職員は今までの利用者との関わりやレベルアップのための研修を通じて自分のしていることが他のスタッフにも理解され、全スタッフが共通理解をもって利用者個々へのサービス提供に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【心のケアに目を向けています】利用者の日々の様子や利用者との何気ない会話を、引き継ぎノート等により職員間で共有し、利用者の思いを受け止め、利用者に戻しています。利用者にとって夢にも思わなかったことが現実になる喜びの場面をたくさん設けています。利用者が何を望んでいるかを洞察し、ケアに反映する取り組みに力を注いでいます。【利用者の権利擁護に力を入れています】利用者に対する身体拘束0、虐待0に向けて、関係機関からの情報を基に職員間で研修を重ねて更なる取り組みに尽力しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49) (※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム ドリーム**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境を守る。 利用者個人個人の人格を尊重する。 地域に根ざし地域に認められる。 以上を理念として掲げサービスに当たっている。	事業所の理念は玄関前と共有ホールに掲示されています。 月に1度のカンファレンスと職員会議において、理念の共有の場を設けています。また、日々の支援が理念から逸れていってしまった場合は、その場で振り返るようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地元の自治会や消防団に所属し常に地域とのつながりを意識しながら利用者サービスに努めている。 地域の行事に参加したり、地元消防団と共に防災訓練を行うなど、積極的に地域と交流している。	自治会では消防団に加わり、事業所として出来ることを手伝っています。また、職員も消防団との関わりを通して交流が深まっています。近隣の方が季節の花や果物を届けて下さり、日常的な交流が持たれています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内での認知症高齢者を抱えた家族の相談に乗り、アドバイスしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、関係者の意見を伺いサービスに活かしている。	コロナ禍の為、事業所より関係者に書類を送り、関係者から頂いた返信の内容を事業所内で検討し、市役所に報告をする形態をとっています。運営推進会議には、他グループホームの管理者に、メンバーに入ってもらっています。お互いが推進会議のメンバーということで、情報交換等がサービスの向上に活かされています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の中でも利用状況をつぶさに報告し、時に助言を求めると共に連携している。	市からのメールを確認し、わからない内容についてその都度教えてもらっています。事業所からは月の初めに入居者情報をお知らせしています。生活保護時給者が入居していることから、市との情報交換は綿密といえます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について研修をおこなっており、常に身体拘束は0となっている。	身体拘束については、職員による日頃の業務での不適切な言葉使いがみられたら、お互いに伝え合ったり、ノートに記述する等身近なところから取り組んでおり、身体拘束は0の状態です。身体拘束をしなければならぬ状況になった際の対応マニュアルは整備されています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について研修を行っており、言葉や態度等も含めた虐待は0となっている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に生年後見人が担当していた方がいるため、十分に理解している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を交わす際十分に説明し理解していただいたから契約をおこなっている。			

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム ドリーム**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者ご家族の言葉には常に耳を傾け要望を把握しサービスに活かしている。	家族それぞれの思いを個別に受け止め、家族の状況に応じた対応に配慮されています。利用者の状況については、言葉による説明とともに、写真や動画を配信してありのままの姿をお知らせしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の引継ぎの際、また毎月の職員会議の際に全職員から意見を聞きドリームの運営や利用者サービスに活かしている。	年に2回、職員との面談が実施されています。職員が得意とする音楽活動やダンス、舞踊をイベントの中に取り入れる等、職員の潜在的な力をケア場面に注いでいます。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の仕事の内容や意欲などを見ながら、給与に反映させている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ドリーム内でも研修を行い、更に外部の研修にも参加させ能力の向上に努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の介護施設とも交流し、情報交換など互いの向上に努めている。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所してから慣れるまでは特に信頼関係の構築に力を注いでいる。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の相談の段階からご家族の要望等は詳細まで聞き取り把握し、円滑な関係をきづいている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記のとおり本人やご家族の希望要望や、今おかれている状況を詳細に把握して利用者にもっとも適したサービスを考えている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の人格を尊重し、人生の先輩として敬いながら共に生活できる環境づくりを実践している。			

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム ドリーム**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは常に連絡報告を怠らず、ご家族とドリームの共通理解で利用者サービスを提供している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい友人知人が面会に来たり、親しんだ場所があったら、そこへドライブに行くなど、これまでの生活を断ち切らないよう努めている。	馴染みの場所を、ドライブや日々の散歩で行った際に、利用者から話される昔話を大切にしています。人生の最期を看取ってくれた事業所に声をかけてくれたり等、退居された家族との関係が継続されています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者同士の係わりには気を配っている。日々レクリエーションや制作活動を提供するなど、良い雰囲気の中で利用者全員が生活できるよう努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も担当職員やご家族と連絡を取りながら、利用者がより良いサービスを受けられるようフォローしている。また、故人となられた利用者様の思い出の品をご家族にまとめて差し上げたり、葬儀に赴くなど、エンゼルケア等にも積極的である			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々の希望要望には常日頃から耳を傾けて把握に努めている。	利用者の思いや意向は、職員が利用者に関わる様々な場面での様子や会話を窺い、職員間で共有しています。意思表示の難しい利用者に対しては、一日の中で必ず目を合わせることが職員間で共有し、利用者の思いを理解し受け止められるよう尽力されています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や担当のケアマネージャーと入居前から密に連絡を取り、これまでの生活歴や、受けていたサービスなど詳細に把握するようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックから始まり、利用者一人ひとりの状況の変化には注意を払いながら、その日の状況に応じたサービスを提供している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状況をお便りで報告し、ご家族の意見を伺いながらケアカンファレンスに盛り込み、更に担当の医師や看護師に相談しながら個々に合わせたサービスを提供している。	利用者のケースによっては主治医、訪問看護師もチームに参加して介護計画が作成されています。介護計画は職員の目の届くところに掲示して共有を図っています。また、利用者に変化のあった事柄は、記録して管理者に報告するようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス提供記録に記入しながら、引継ぎ時も職員同士で密に報告や連絡をして常に職員全員が共通理解を持ってサービスに当たっている。			

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム ドリーム**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
		ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりの状況の変化にはスタッフ全員で常に注意を払っているのでその都度柔軟に対応している。			
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関係は十分に構築されているため、地域資源も視野に入れながら利用者サービスに当たっている。			
30 (11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師の選択は本人、ご家族の希望ととし、その他必要に応じて様々な科を診療できるよう、医師や病院との係わりには常日頃から気を配っている。	入居前のかかりつけ医を継続している利用者がいます。入居時にかかりつけ医の継続もしくは協力医の説明をして選択していただいています。家族の多くは事業所の協力医であることの安心と、負担の軽減から協力医に変更しています。		
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院であるハッピークリニックの内布医師と看護師と常に連携している 月に2度の薬剤師による療養管理指導、訪問診療、毎週の訪問看護により適切な受診や看護を受けられている			
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院であるハッピークリニックの内布医師を通じて各専門医との関係も良好であるので入院治療、退院後の対応なども万全になっている。			
33 (12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態が悪化してきた場合は、協力病院であるハッピークリニックの内布医師も交えてご家族と密に協議しながら、利用者への対応がより良いものであるよう心掛けている。	入所にあたり終末期の対応について家族から希望を聞いて同意を得ています。事業所は看取りの対応を基本にしていません。医療的なケアが必要な利用者に対しては、主治医により専門の訪問看護を派遣していただいたり、職員が担えるケアをすることで看取りの体制が取られています。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力病院であるハッピークリニックの内布医師と看護師と常に連携している 緊急時のマニュアルはスタッフ全員に配布し周知徹底し、更にスタッフルームにも用意してある。また毎月の職員会議の際確認している			
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3度避難訓練を行い、その中で夜間想定と洪水時の訓練を行っている。 また、地元消防団と共に訓練をする等、消防団の協力を得られている。	事業所は洪水の危険区域になっていることから洪水を想定した避難訓練が行われています。避難訓練は、その日の勤務職員で実施し、職員会議ではみんなが出勤している際の実施と二つの実施方法をとっています。災害時は地域の方が支援に来てくださるとの話を常日頃いただいています。	事業所は開設より16年の積み重ねを経て地域との良好な関係を築いています。災害時には地域の自治会と災害時における相互扶助の協定を結ぶ事で、関係者が代わった場合も引き継ぐことができると思っていますのでご検討願います。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36 (14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	利用者は人生の先輩であるという意識はスタッフ全員が持っているため、利用者への言葉かけや態度には十分に配慮しながらサービスを行っている。	共有ホールにいられない利用者には、様子を察して居室に誘うなど、一人ひとりの内面に配慮した対応がなされています。居室の出入りやトイレの声掛け等、利用者の状態に応じた対応に留意されています。		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム ドリーム**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望、要望は最大限聞き入れるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの状況は日々変化することがあるので、その日の個々のペースに合わせたサービス提供に努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとに洋服を入れ替え、時期に合わせたコーディネートを支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ADL的に可能な利用者が居る時は、簡単な調理や食後の皿洗いなど、出来ることを無理なく手伝ってもらいながら過ごしている。	通常食、ムース、ミキサー食等利用者の状態に応じた食事の形態がとられています。また、見た目の違いについては小鉢を複数用意して色分けをしたり、トッピングにも工夫を凝らしています。調理に関わる利用者が少ないため、お皿拭きや盛り付けの場面に担っていただいています。イベントや季節の行事食をメニューに取り入れています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事やお茶など、栄養士が個々に合わせた栄養バランスや水分補給を考え提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員の口腔ケアを個々の常態に合わせて行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけオムツではなく自立排泄が出来るよう、定期と併せて希望に応じたトイレ誘導をしている。	夜間は3名の利用者が居室にてポータブルトイレを使用しています。居室に人感センサーを付けさせていただき、排泄時の見守りをしています。排泄の声掛けを拒否される利用者には、声掛けの職員を変えたり、本人の気持ちを察して声掛けの仕方を変えるなどして誘導しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	協力病院であるハッピークリニックの内布医師と看護師と協力しながら、水分や薬、運動で調整している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は一人ずつ入ってもらい、ゆったりと過ごせる様支援している。また、希望に応じて入浴日以外に入浴サービスも行っている。	入浴日以外でも本人の希望やその日の天候により、職員からの声掛けで入浴や足浴、シャワー浴をしています。車いすの利用者については、安全面から職員体制を整えての入浴支援をしています。介助については同性介助を頭に入れながら利用者の希望を聞いて対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の毎日の睡眠状況を把握し、午睡の時間を設ける等、その状況に応じて利用者が快適に過ごせる様気をつけている。			

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム ドリーム**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協薬薬局からの資料から、スタッフ全員が効能や副作用を理解し、利用者の変化に気をつけながら服薬介助している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、レクリエーションや制作活動をの提供している。 利用者の特技や趣味を最大限活かしながら日常生活を過ごせるよう心がけている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過により外出の頻度は減少にあるが、天候の良い日は事業所の庭先に出てプランターの花の手入れや会長宅の犬と遊んだりしている。	主に事業所の周辺や近所を散歩しています。ドライブは職員会議の日等、職員体制が厚い時に実施しています。敷地内に出てプランターによる花づくりをしたり、トマトを栽培して収穫を楽しんだり、コロナ禍の中で出来る範囲の外出の場面を設け楽しんでいます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ過にあり買い物を目的とした外出は行われていない、その為今は金銭は預かっていない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じてご家族に電話をかけたり、お手紙を送ったりできるよう支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度には十分注意を払い、またBGMの音量などにも気をつけている。また朝日などが直接当たるような時間帯はカーテンを閉めておいたり、環境には気を配っている。	共有空間ではBGMとして懐メロや民謡を流したり、利用者の好みを反映させたレクリエーションを考えて提供しています。利用者からぬいぐるみを置いてほしいとの要望があり、犬・猫・こどものぬいぐるみを置いています。利用者にとって癒しの存在になっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには畳コーナーの他ソファも用意されているので、何時でも一人になったり気の合った利用者同士が語り合えるようになっている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはコタツや仏壇など好みの品を自由に持ち込んでいただいているので、これまでの生活環境を維持しつつ居心地よく過ごせるようになっている。	利用者の中には入居前から使われていた桐のタンスや仏壇を持ち込んでいます。猫好きな方は部屋の天井や壁にポスターをはったり、皇室の写真をベッドの周りに貼ったりと、本人にとって居心地の良い居室の中で生活されています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はフラット構造になっており、安全を確保した中で利用者ができる限り自立した生活を送れるよう支援している。			